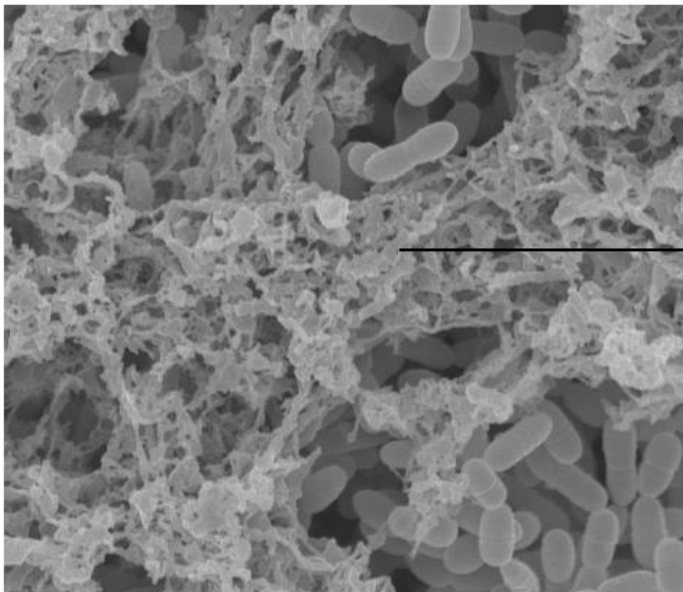


ミュータンスレンサ球菌とは

う蝕は細菌感染症です。主な原因菌としては *Streptococcus mutans* と *S. sobrinus* が知られています。これらのう蝕原因菌は歯に特異的に付着すること、プラーク形成に重要な粘着性で不溶性の菌体外多糖体を産生すること、スクロースなどの糖から酸を産生することでう蝕を誘発することが知られています。う蝕の原因となる歯垢（デンタルプラーク）は多くの細菌種と粘液性多糖体から形成されていますが、この歯垢の形成にう蝕原因菌は深く関与しています。

また、本菌は歯肉炎や菌血症にも関連しています。近年では本菌を含む口腔内細菌が全身疾患にも影響を及ぼすことが報告されています。特に、動脈硬化症、糖尿病、高血圧症、早産との関連性などとの関連性が指摘され、社会的にも関心をもたれています。

ミュータンスレンサ球菌 (*S. mutans*) のバイオフィルム(電子顕微鏡像)



1% スクロース(ショ糖) 添加時の
バイオフィルム

S. mutans の病原性因子としては、バイオフィルム形成能、酸産生能、耐酸性能が主にあります。